

イワガキ礁管理マニュアル

鳥取県栽培漁業センター

本マニュアルは、イワガキ増殖場におけるイワガキ資源の増殖に必要なイワガキ礁の管理事項として、1 岩盤清掃、2 肉食性巻貝レイシガイ等（以下「レイシガイ」という。）の駆除及び3 モニタリングの3点について示したものである。

1 岩盤清掃

目 的：イワガキ礁の表面を清掃することによりイワガキ幼生の着底環境を作り出すこと

時 期：9月下旬から10月下旬

内 容：イワガキ幼生の来遊が最も多い時期（9月下旬から10月下旬）に潜水によりケレン棒を用いてイワガキ礁の表面が露出するまで清掃する。

その際、イワガキ幼生が着底できるよう、フジツボやカンザシゴカイ等の付着生物及び漁獲の際にイワガキ礁表面に残ったイワガキの殻等の付着物を徹底的に除去すること。また、清掃場所は、イワガキが付着し漁獲した所を集中的に掃除するのがよい。

道 具：ケレン棒

2 レイシガイの駆除

目 的：イワガキ稚貝の食害生物であるレイシガイを駆除し、イワガキ稚貝の生残を高めること

時 期：6月上旬から8月中旬

内 容：レイシガイが活動的になり、産卵により増殖する6月上旬から8月中旬に集中駆除（潜水により増殖した地点に玉ねぎネットを受けて素手で採集）を実施する。

岩盤清掃を実施したイワガキ礁周辺でレイシガイを駆除しなければ、着底したイワガキ稚貝が食害により減耗する。

イワガキ稚貝は殻高50mm前後の大きさまで食害されるため、翌年の同時期にも駆除を行うことが望ましい。

なお、駆除したレイシガイは、付着物除去及び砂抜き後、選別して出荷することが望ましい。

3 モニタリング（新設）

目 的：岩盤清掃後のイワガキ稚貝の着底及び生残状況を確認すること

時 期：5月から8月

内 容：前年に岩盤清掃したイワガキ礁の清掃面をタワシでこすり汚れを落とした後、潜水

目視により観察し、イワガキ礁1面（0.8m×0.8m）あたりの稚貝の数を計数する。

イワガキ礁岩盤清掃後モニタリングの判定表

イワガキ礁1面（0.8m×0.8m）あたりのイワガキ稚貝個体数	判断
150～750個体 （大きさ：殻高約0.2～3.5ミリ）	良好 ⇒前年度の清掃時期や清掃方法が適していたと判断
50個体未満 （大きさ：同上） ※フジツボ等が優占	少ない ⇒清掃時期（フジツボやヒバリガイ等が優占する場合は時期が早すぎる）や清掃方法の見直し（イワガキ礁の表面が露出するまできれいに研磨できていたか）が必要。 必要に応じて、再度、岩盤清掃を行う。

なお、初夏から秋にかけてのモニタリングで、多数の死殻が確認された場合は、死殻を確認し、レイシガイによる食害痕が確認された場合は、レイシガイの駆除を行うことが望ましい。

管理スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
岩盤清掃												
レイシガイ駆除												
モニタリング												

附則

このマニュアルは平成27年12月24日から施行する。

附則

このマニュアルの一部改正は、令和6年8月26日から施行し、適用する。